

取るべきもはたすつべきもわれにあり天地これや皆歌の領

月の精こよひ白衣の若人とゆめに入りませほだい樹のかけ

酒さげて雲助かへるこの夕べ關のふるみち秋かぜ寒き

斯道に志ある人、一本を座右に置かば利する所

多からん（定價十五錢 發行所 伊勢稻生村みど

り短歌會）

### 保育者のため

## 幼稚園幼兒の机とその并べ方

東基吉 君 談話

子供の机は小學校と同じ様に、机腰掛もつながつた二人掛のがよいか、夫とも兩方から向ひ合はせに八人位共用の卓子にして腰掛を別に一人掛のか二人掛のかを離してするのがよいか、又排べるにも小學校の様にならべざるがよいか、或は卓子にて

四所位に八人位つゝ一團にさせるのがよいであらうか。

これに付いて、私は机腰掛は從來の小學校風でなくつて、八人位共用の卓子と一人か二人掛の腰掛を別にするといふ側のにしたたいと思ひます。

従つて排べるにも、小學校の教場の様でなく、四十人の一組ならば、八人つゝ一の卓子に向つて一室の五所にかたまるといふ風がよいと思ふ。

第一今迄の様に机腰掛からその排べ方を小學校の様にすると、どうも室が丸で教場の様で保育が個人的よりか一齊的になる傾が免れない。夫に見た所保育室らしくなくつてどうしても嚴格な教場の感じがする。も一つは其爲めに室が丸で机腰掛のために占領せられて、他に遊戲室でもない場合に其室を利用していろく遊戯などをやるといふに

不便である。

夫を卓子にすると、室に餘程余裕が出来て廣く使へるし、見た所も如何にも團欒的である。然しこゝろとすると話などする時に、子供が横向きになつて聞かねばならぬ様なことがあつて不都合だといふ人もあるかも知れぬが、話などする時は、腰掛丈け持つて、皆先生の所へ集まらせばよい、唱歌の時でもそうである。一體幼稚園の机は元々細工臺の様なものでお晝には食臺となる丈である。子供が仕事をする爲めの臺なのだから、子供が一生懸命に仕事をする、教師は其時に見回はつて、氣を付けてやれば夫れでよいので従つてそう／＼机に向つて腰掛けさせて始終教師に向はせて置かなくつても宜しいのである。たゞそうすると、光線の受け方が一定しないで、ある子供は右から受ける様

なことにもなるけれども、それとても、そう細かな事を一時間もやらして置くといふことでないから、別段心配するにも及ぶまい。夫に第一卓子にすると、机腰掛にするとは費用の點に於ても大に相違があると思ふ。

も一つ幼稚園の机の面には碁盤の目の様な罫を引いてあるのだが、これも別段引かせねばならぬといふ必要はないので、元來は板を并べたり何かするのに、子供が其罫に依つてする便利の上から引かせたのだと思ふが、實際を見ると、そう／＼利用もして居ないし、又利用させる程の必要もない様に思ふ。

左の二篇は女子高等師範學校の調査にかゝるものとして先頃の官報を以て發表せられしもの、

編輯上の都合に由りて本誌に掲載するを得ざりし中、既に他の一二雑誌にも見えたれど、有益のものなれば、更にこゝに掲載することとせり

### 幼児に適切なる談話の種類及其教育的價值

#### ● 幼稚園に於ける談話の意義

談話は興味ある話題を用ひ幼児を樂ましめつゝ、其感情を育成し思想を陶冶して徳性啓發の資たらしめ發達に應じて漠然たる觀念を多少正確ならしめ觀察注意の習慣と發音言語の練習とを得しむる目的を以て保育者が幼児に聞かしめ或は保育者と幼兒との間になさるゝものを云ふ故に幼稚園の談話は必らずしも常に一定の時間に於てのみなさるべきものにわらず其他の保育事項を施すに際して

も必然附隨し來るを常とす、  
● 談話の種類 談話の種類は大別して左の三種とす  
一 假作 二 實話 三 實話に假作を附加せるもの  
一、假作の談話は主として寓言と童話とをいふ  
(一) 寓言は道德的訓誡を寓したる簡單なる假作談なり兔と龜との談蟻と鳩との談の如し  
(二) 童話、寓言に比して多くは纏りたる物語の體をなし必らずしも道德的訓誡を含みたるものゝみに限らず時には全く非訓誡のものもあり桃太郎、松山鏡、七匹の山羊等の如し  
二、實話 實話の範圍は甚だ廣し偶發事項の談話庶物の談話事實の談話等皆之に屬す  
(一) 偶發事項の談話、偶然實際に起りたる出來事につきての談話、往復途中幼稚園に於ける日常